

市民なんかも避難所として何かあれば使うわけですので、ぜひしっかりと対応していただきたいと思います。最後に、その件について何かよろしく、コメントをお願いします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。学校についてはそういったいわゆる天井みみたいな危険なものがないかということをおかげさまで予算は補正でお認めいただきましたので、早速再度点検しながら、子供たちにとって安全・安心な学びの場であるよう今後とも整備等々について努力してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

○蒲生光男議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

まず、第1は特別養護老人ホームの入所待機者についてであります。

私は、12月議会で市長の9月議会での私の福祉施設増設を求めた質問への答弁が、市内特別養護老人ホームや老人保健施設には待機者が実質的にいない状況が出ていると、いかにも市内の特別養護老人ホームと老人保健施設には入所待機者がいないとしかとれない事実と反する答弁であったため、私は実態を調べた上、現に入所希望者が260人もいる事実を上げ、次の三つの理由から市長答弁を訂正するよう求めました。

1、事実と反する答弁を認めることは厳粛な議会の権威を失墜させることになる。2、現に入所を待ち望んでいる方々をないがしろにすることになる。3、こうした認識からは待機者の願いにこたえ、施設をつくる真剣な努力が出てこない。これに対し市長は、調査したところ、市民の待機者は現在167名で、実質待機者は120名ぐらいになると明らかにしました。それなのに市長は9月議会の答弁は待機者がいませんとは言っておりません。入所する人がいない事実もあって待機者がいないと推定されると述べたものであり、陳謝や削除は考えていないと答えました。

しかし、私が調べてみると、あきが出たので入ってくださいといっても入る人がいない、待機者がいないと市長が答弁した根拠は、その時点の寿泉荘の場合を上げたもので、260名も入所を待っている慈光園は視野に入っていません。しかも慈光園だけではなく、ほとんどの特別養護老人ホームが入所待機者を抱えており、入所希望が定員ぎりぎりという施設は県内でも最も早く開設し、建物も古い寿泉荘だけといってよく、例外的と言えます。したがって、寿泉荘の例を挙げ、待機者がいない例とすること自体不適切です。

しかも市長答弁は市内の特別養護老人ホームと老人ホーム全体に待機者がいないかのような

+

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

+

○蒲生光男議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

今泉春江議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位5番、議席番号4番、今泉春江議員。

(4番今泉春江議員登壇)

○4番 今泉春江議員 今泉春江でございます。日本共産党を代表し、内谷市長に3点について質問します。

内容になっており、事実多くの方がそのように受けとめています。このように市長答弁は正確ではありませんし、誤解を招きます。政治と行政に曖昧さがあるってはならず、正確さが必要です。また、不適切がある場合はそれを改める率直さと誠実さが求められます。市長は以上の点を認め、答弁を正し、待機者の解消に真剣に取り組まれてはいかがでしょうか。お答えください。

第2に、東芝ライテック長井工場の閉鎖問題の現状と市の対策についてお聞きします。

東芝ライテックは同工場をこの3月をもって鹿沼に移転し、閉鎖するとしていましたが、その3月がついに来ました。共産党が会社には社会的責任があるとして工場閉鎖に反対し、雇用と地域経済を守るためいろいろと取り組んできたことはこれまでの市議会でも申し上げてきましたが、12月県議会でも我が党の渡辺ゆり子県議が改めて知事に対処を要請したところであり

そこでまず伺いますが、市が当初、閉鎖撤回を求め、その後も雇用の確保などで要望してきた東芝ライテック長井工場の現状はどうなっているのでしょうか。多くの市民の皆さんが心配し、状況を知りたいと望んでおられます。正社員の何人が鹿沼に移り、行けない人は何人でその方たちはどうなるのでしょうか。また、有期雇用の人たちはどうなっているのでしょうか。特にこの過程で移転や解雇の強制が行われなかったか。従業員の皆さんが今どんなことを望んでおられるかをお知らせください。そして閉鎖に当たって市が会社に提起、要望した3項目の結果がどうなっているのか。今後どのように対処するつもりなのかお聞かせください。

第3に、長井市の健康づくりの取り組みについてお伺いします。

誰でもが健康で長生きしたいと思っております。健康であれば医療や介護にかかる費用も抑

制できます。山形県では吉村知事も2期目の課題の大きな一つに健康寿命を延ばす健康づくりを上げています。

健康づくりには食事、運動、病気の早期発見と総合的な改善が大事で、子供のうちからの取り組みが重要と言われています。長井市には食生活改善で健康づくりを行っている153人の食生活改善推進員の方々がおられます。食生活は健康づくりには特に重要でその活動は減塩運動や子供から高齢者までの幅広い食育の推進を行い、健康づくりを進めるために食生活改善に取り組んでおります。これらの活動が高く評価され、厚生労働大臣表彰の受賞、やまがた食育推進地産地消推進活動最優秀賞受賞などの多方面から大きく評価され、期待されており、長井市にとっては健康づくりの担い手としてなくてはならない方々です。

ところが、市は新年度この会員を養成し、増員するための栄養講座を開催しないと聞きました。これまでも毎年10人程度の受講生があり、その人たちを新しい食生活改善推進員に迎えて活動を発展させてきました。食生活改善運動を広めるためにも市は栄養講座を開講し、会員をふやすようにすべきと思いますが、どうでしょうか。健康課長に伺います。

また、この食生活改善推進活動や乳幼児や妊婦、さらに高齢者など、市民の健康づくりには栄養士の指導が必要です。しかし、昨年からの市の栄養士が欠員となっており、市民の健康づくりに支障がないか大変心配しております。きめ細かな市民への栄養指導のためにも市の専属の栄養士を配置すべきではないでしょうか。市長、いかがでしょうか。お考えをお聞かせください。

以上、大きく三つの点について質問し、実りある答弁を期待して、壇上からの質問といたします。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 日本共産党の今泉春江議員のご

質問にお答えいたします。

議員からは大きく3点、ご質問いただいております。まず、第1点目の特別養護老人ホーム入所待機者について、市長答弁を正し、待機者解消に真剣な努力を行うことについてお答えを申し上げます。

9月議会で市内特別養護老人ホームや老人保健施設では入所待機者が実質的にいない状況が出ておりますと答弁いたしましたのは、市内の特別養護老人ホーム、具体的には寿泉荘で4床の空きがあり、入所申し込みをしているにもかかわらず、入所しないという状況を見て申し上げたところでございます。これはただいま今泉議員からご指摘のあったとおりでございます。これに対して、担当課長のほうからの分析から、私が申し上げましたのは事実とは言いがたい状況がその後、判明いたしましたので、謹んで訂正をさせていただきたいというふうに思います。その後の調査の結果、昨年12月末の段階では、入所待機者は実数として131名ではないかというふうに推定してるところでございます。

現在、建設中の小規模特老がこの4月にオープンする予定でございますので、入所状況を見ながら毎年度待機者状況の調査を行いまして、待機者解消に向けて次期の介護保険計画で検討してまいりたいというふうに思います。

次に、2点目の東芝ライテック工場移転、閉鎖についてでございます。移転、閉鎖の現状と対策についてのご質問でございます。議員からは、正社員の何人が鹿沼に移るのか。行けない人は何人でその方はどうなるのか。有期雇用の方はどうなるのか。移転や解雇の強要はなかったのか。従業員は何を望んでおられるのか。市が要望した3項目の提案についての結果はというご質問でございます。

東芝ライテック長井工場の工場閉鎖という事態は、これまで続いてきた東芝と長井市との関係が途切れてしまうことになりまして、市にと

りまして産業面、雇用面で大きな問題であり、従業員の皆さんやご家族にとりましても極めて厳しい事態であると考えているところです。

これは前回のご質問でも申し上げましたとおり、このため工場閉鎖の説明を受けてから直ちに飯豊町と協力いたしまして、さらに長井市、飯豊町両議会にもご協力をいただき、議会と一緒に副市長と関係課の職員で神奈川県にあるライテック本社を訪問いたしまして、工場閉鎖の撤回と市の要望を伝えました。当時、私は出張で行けなかったということもあって、後ほど蒲生議長とともに県の職員と一緒に本社のほうに出向き、本社の渋谷社長と面談をしながら改めて再度お願いしたところでございました。

しかし、これまでも議会で説明しましたとおり、照明業界のLED普及に伴う技術革新は会社の製造ラインの大幅な見直しだけではなくて、経営方針まで見直す必要に迫られているほどの大きな影響が、重大な影響があったということから、工場閉鎖の方針見直しは難しい状況であることが、再三会社側からのそういった中での説明がございました。

このため工場閉鎖後に別の企業形態で仕事を継続する方法を私ども提案してきたところでございます。この1月の24日に東芝ライテックの本社の渋谷社長が長井市に来られた際にも話し合いを持ちましたが、渋谷社長からは、市からの提案についてまだ回答ができていない状況だということでもう少し時間をいただきたいと。今後も対応策を検討しますというご返事をそのときはいただいております。

従業員の方にとりましては雇用継続が一番の希望と思われまはるはもちろんでございますが、その後、ライテックが東芝以外の会社の電球等を受託生産していたという情報を得ましたので、東芝以外の会社からの受託生産を子会社で行う方式の提案も新たに行ってきました。残念ながらライテック側のお話ですと、現在の設

備の生産能力の大きさに対し、受託が見込まれる生産量が少量であるため実現は難しいということで打開策にはなりません。また、東芝グループ全体から何らかの仕事を受注するために今後も機会を捉えながら強い働きかけを行いたいと考えてるところです。

従業員の方の状況でございますが、2月22日現在での動向でございますけれども、東芝ライテックの正社員85名中33名が異動予定というふうに聞いております。残務整理や新ライン立ち上げ支援の方は正社員として支援業務に従事後、退職となり、25名の方が予定されております。残る27名が3月末で退職されるということ聞いております。

ハローワークや県の総合支庁とも情報交換や協議をしておりますが、テンプスタッフという再就職をあっせんする会社でございますけれども、ここが再就職までの支援を最後の1人まできちんと支援していくということでございましたので、個別の対応は現在、行政としては予定しておりません。もちろんテンプスタッフの就職あっせん以外にも職を探される場合はハローワークで紹介していただいておりますし、私ども市役所でもそういった情報は要請があればきちんとお伝えしていきたいというふうに考えております。

また、残念ながら有期の雇用については最初から期限の限定だということで、その後の再雇用については具体的な方針はないということでございました。

また、転職や解雇の強要についてはなかったのかということですが、工場閉鎖に当たり全員異動してもらいたいというのが会社の方針でしたので、そうしたことがあったとは聞いておりません。逆にこれは一部のケースではあるわけですが、ぜひ引き続き退職なさらぬで鹿沼に、あるいは本社で働いてほしいという旨の会社側からの依頼もあった方もいらっしゃった

というふうに聞いておりました、そういった強要についてはなかったというふうに聞いてるところでございます。

なお、飯豊町のほうのLDFにつきましては、こちらは飯豊町のほうがきちんと詳しい情報を持ってるといふふうに思いますが、長井市関係者では18名の方が退職されて、14名の方が鹿沼のほうに行かれるというふうなことを聞いてるところでございます。以上でございます。

次に、3点目の市民の健康づくりについてで、私のほうからは(2)の欠員となった専属の栄養士を配置することということについてお答えいたします。

県内の管理栄養士及び栄養士の配置状況は、嘱託職員を含めて配置している市町村は28団体のうち正職員の配置をしている市町村数は22団体となっているようでございます。管内では全ての市町で管理栄養士もしくは栄養士を配置してようです。

今回の栄養士の欠員は自己都合による退職で、年度途中でございましたので、健康課のほうではどこにも所属しないフリーの管理栄養士や長井病院の管理栄養士に派遣を依頼して急場をしのいでいるというのが現状でございます。特定保健指導、母子の保健事業、ミニデイサービスなどの従来の健康づくりとともに、来年度からスタートする健康日本21ながい、これは第2次の計画でございますけれども、この計画推進、また食育の推進など、新しいメニューもふえておりますので、早目に専属の栄養士を配置したいというふうに考えております。

私のほうからは以上です。

○蒲生光男議長 松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長 今泉議員のご質問にお答えしたいと思います。

私のほうからは、栄養講座を開催し、食生活改善推進員を拡大することについてでございます。

長井市の食生活改善推進員の数は議員ご指摘のとおり153名、現在の数字でございます。これを拡大するには栄養講座を開催することになり、管理栄養士や栄養士が必要になってきます。現在、市長が申しあげましたとおり、栄養士が欠員という状況になっております。また、もし配置になったとしても栄養講座は7日間ということもございますので、担当する能力も必要になってくるといふことで、従来どおりの開催は今のところ難しい状況かなというふうに思っています。今は何とか欠員を補充して配置して、その後に栄養講座の開催について再検討していきたいなというふうに思っています。

また、栄養講座を受講して食生活改善推進協議会の会員に大体なるわけなんです、毎年10名以上の方が入会しても、反面、高齢化等々で退会するという方もいらっしゃいます。退会する方を少なくするというようなこともあわせて検討していかなければならないかなというふうに思っております。なお、いわゆる食改アドバンス事業は来年も予定させていただきます。

また、来年度は健康日本21ながい第2次の計画がスタートということでもあります。食に携わる方、運動に携わる方、そういった方が大学の先生や医師による研修を受けて知識を深め、そして食と運動のノウハウをワンセットで学ぶということ、そして実践できるよう「学・食・運」研修事業というのを行っていきたいと思っています。栄養講座を開催して食生活改善推進員の数をふやすということも意義があることだと思いますが、運動の知識をあわせ持った食生活改善推進員の方もふえてくれれば、健康づくりの幅も広がりますし、多様性も深まると一層の健康づくりができるものというふうに思っています。以上でございます。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 ご答弁いただきました。最初の特別養護老人ホームの入所待機者につい

てのご答弁について再質問させていただきます。

市長は事実と違うということで寿泉荘のことを申しあげたということで訂正させてもらうというご答弁でした。大変前進的なご答弁として理解させていただきます。

私がこの問題をなぜ何回も取り上げたかと申しますと、時間もあるのでちょっとまた再質問でいたします。昨年6月に待機者が137人いると市のほうから報告がありました。137人も入所待機者がいるということのこの現状を解決するためにも、そしてこの願いを解決するためにも定員100人の施設をつくればそこで雇用も生まれ、また地域の大きな経済効果も出るとして6月議会に私がお提言申し上げたところでした。

ところが、9月に市長は、市内の特老保健施設に待機者がいない状況が実質あると言っておられました。そうであれば施設の増設は必要でないわけなんです。そこで待機者がいないということはどういうことかということで、12月に私は市内の特別養護老人ホームを調査し、入所待機者が260人もいる施設もあるというのに、いないという市長の答弁が違うのではないかとということで、これを訂正し、待機者解消に取り組むべきではないかと申しあげました。市長、このように理解していただけますでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今、今泉議員がおっしゃったとおりですが、私も反省すべきは、やはり私は待機者がいるというふうに思っておったんですが、いや、いない状況もあったという担当課のほうからの報告がありまして、それをついそのまま言ってしまったということが自分としては悔やまれるわけです。寿泉荘が一時4人も定員があいてたのにもかかわらず、どなたも応募がなかったということについてちょっと誤った表現をしてしまったということだと思います。それについては重ねておわびを申し上げたいと思います。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 そしてさらに、市長が例として寿泉荘の例を挙げたわけなんですけども、それによって実質入所待機者がいない状況にあるという答弁だったものですから、しかし、この寿泉荘を例にとって入所待機者がいらっしやらないということをご答弁なさったことに大きな問題があるのではないかと思っ、そのときにさらにお伺いしたわけです。

そして市長も、私も申し上げておりますように、この寿泉荘というのは県内でも創設が一番古く、そして現在、建物が古く、確かに市長のおっしゃってるように、私が調査したときも4床空きがあり、そしてその4床は短期入所者で今は満床となっていますということなんですけども、この100名の入所、ベッドがあるのにもかかわらず4床があいたということを市長がおっしゃったことが調査でわかりました。今回、市長がそのことを認めていただき、この入所待機者の認識が間違ってたということで訂正していただき、本当に私はほっとしております。

ですから、この反対もあるわけですよ。このたびは入所待機者がいないということでしたが、反対に入所待機者が多いところ、実際130人以上いるわけですから、その逆も言えるわけですよ。入所待機者がすごくあるところがあって、こんなにいるんでないか、どうなんだということ、ただ一つのことだけを取り上げて言うのもこれも間違いであって、市内には幾つの特老があるわけですから、その例として挙げるならやっぱり平均的なというか、正確な調査というようなことが必要でなかったかなと感じるわけです。

ですから、この市長答弁に対して私は市政に間違いがあってはならないんでないか、あいまいさがあってはならないんじゃないかということで、12月議会に質問させていただいたところでした。しかし、今回、市長は訂正していただ

き、本当に前進だと思います。

そういうことであれば今後、市長と一緒にこの介護問題というのをしっかりとお互いに認識し、進めていくことができるわけですよ。実際私の周りでも入所申し込みをしていたが、待ってる間に亡くなってしまい、家の人は大変残念だとおっしゃってました。もし入居なさってればもっと長生きできたんだろかななどご家族の方もおっしゃってましたし、私もそのように感じます。

そういうことでこの介護問題というのは大変ご本人もそうですし、家族の方にも大変重要なことになっております。ちょっと一つ、3月5日の「しんぶん赤旗」に短歌が掲載されておりました。妻と我、天井を眺めつつ横たわる老老二人、ヘルパー待つ身、こういうようなことも実際長井市でもあるんじゃないかなと非常に私は胸がいっぱいになりました。そのためにもこの方々、また市民の願いにこたえるためにも、こたえた福祉であってほしいと強く思うわけであり、

市長のおっしゃっている日本一幸せに暮らせるまちの実現に向け、進んでいていただきたいなど切に要望いたします。市長、このことについて一言またお答えお願いいたします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員おっしゃるとおりだと思います。でよろしいですか。一言ってことです。

ただ、6月議会でも申し上げましたように、介護保険料の関係もあるもんですから、なかなか待機者ゼロを目指すのが市としては責務でございますけれども、ようやくほかのところは介護保険料が上がって、今は県内35市町村の中で中位より下まで下がりました。それ以前は、昨年までは県下で6番目、7番目に高かったということであり、なおかつそういった中で施設介護の定員ですけども、市民1,000人当たりでは

+

県下では2番目に施設の設置率が高かったということから、今回はもう第5次介護保険の計画がもうスタートしておりますので、次期の際、検討したいと申し上げたとおりでございます。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 ぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思います。

次に、東芝ライテック問題について再質問させていただきます。

まず、行かれる方、行けない方、残務整理というようなことではっきりした人数がわかったわけですね。しかし、市が本社に対して提起した3項目というのが現実にまだ回答がなく、そして対応策がないということなもので、非常にやっぱり行けない方、また有期雇用の方、確かにハローワークなどで再就職先などを探してらっしゃると思います。本当にこの長井市で東芝ライテックの工場が閉鎖するということは大きな雇用が失われるわけでありまして、市としても、12月議会でも申し上げましたが、本当に真剣になって、もちろん真剣に取り組んでいらっしゃると思いますが、もっと社員のために相談に乗って、前向きにこの提案なり再就職などのことについて市が取り組んでいただきたいなと感じるところです。

というのは、家族の方がうちの息子、どうなんだかと。本人は行かないと言っていると。市は何にもそのことに対して具体的に東芝ライテックに対して何にもしてくれないというような家族の声も聞こえております。今が、今がどうか、3月で終わりのわけですから、これからが重要だと思います。再就職のあっせん、それから情報の提供、それから有期雇用者は期限があるわけですから、これはその方も含めてこれから大きく支援していく必要があるんじゃないでしょうか。会社は社会的責任があると思います。今まで従業員がいて頑張ってくれたから東芝ライテックさんの経営がうまくいったわけ

ですね。だから従業員の方の今後の対応というものをしっかりと最後までしていただきたいなと強く望むところです。

雇用というのは政治と行政が守っていくべきであって、今も申したように、市として真剣に対応すべきではないでしょうか。さっきも申しました市が最後まで市民を守っていくことが重要で、雇用を守っていただきたいと思います。市長、いかがでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員おっしゃるのが理想でございますが、やはり市のほうでライテックに会社の経営にいろいろ関与できる立場ではないということはお承知のとおりです。かつてマルコン電子さんの株を長井市が持ってたにもかかわらず、あのよう清算されてしまったという苦い経験から、このたびはできる限り従業員の方のやはり再就職なりさまざまな困っていることについての対応をすべく考えているところなんです。一つは会社の中で東芝さんというやはり大企業ですので、きちんとした対応をされているということを再三再四伺っております。当然工場長、現場の工場長ですね、長井の。本社の社長あるいは総務部長さんの言葉を丸のみするだけじゃなくて、現場のほうどうなんだということから、例えば大道寺議員からもお世話になって労働組合のほうの委員長さんとかお話を聞いたりとかして、その中でやはりまずは会社内で社員一人一人と会社が面談してされると。それはそっとしてほしいという話がありました。

したがって、私ども地元の自治体としては本当に地元から東芝ライテックっていう誘致企業が撤退されるのは本当に残念のきわみでございますけれども、これを今の日本国憲法の中で、じゃあ、何が我々自治体としてできるんだといったら、やはり従業員の方のさまざまな支援しかないだらうと。会社に対して何者も権限はあ

りませんので、やっぱりお願いを一生懸命してきたと。それは決して適切な対応をしてきたのではないと。それなりの誠意を持ってやってきたわけでございますし、本社からも何度も何度も長井市には来てますし、私はそれなりの対応をしていただいていると思っております。ただ、やはり従業員の方もいろんな立場の方いらっしゃいますので、それぞれ思いは長井市は何もしてくれないという方も今泉議員のほうに相談された方いらっしゃるのかもしれませんが、そういった場合にはむしろ今泉議員から橋渡し役として私どもに言っていただければ、できる限りのことは対応するわけですね。現に私ども窓口は設けておりませんが、いろんな形で何らかの対応をするということは窓口を旗を上げてるわけですので、そんなことなども酌み取っていただければというふうに思います。

なお、今後、今泉議員から長井市としてこういったことをすべきだというご提言などをいただければ鋭意検討しながら、前向きに対応しなきゃいけないと思っております。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 3月いっぱいということなものですから、大体社員の方の行ける方、行けない方、またやめる方というのが、先ほど市長がおっしゃったように、決まったわけですので、やはり今後も引き続き市としても何らかの情報や支援をしていただければと思います。12月議会でも申し上げましたけども、私たちもライテックの状況を知りたいと思って会社にお電話したんですけども、ライテック側は市としか話さない。あとマスコミや私たちとは、最初は相談というか話し合いますという回答だったんですけど、一転して話し合いをしないと。市とだけは話し合いをするというようなご返事だったもので、なかなかその様子がわからず、本当に私たちも心配しておりました。労働組合の方にお聞きしてもなかなか明確なお答え

とか、お話がないものですから、大変心配しており、やはり情報を知りたいと思って質問させていただいたわけです。引き続き行けない方とか、家族のためにいろんな情報や支援をしていただきたいと思います。私も3月いっぱいということではありますが、4月になってもいろんな問題が起きるわけですね。そういうところでいろいろと相談に乗っていただければと、また解決策があればと。また、市と一緒に進めていただければ強く思っているところです。

そこでやはり企業の撤退ということが、ライテックは去年の3月の連結決算でも黒字だったわけですね。それでも会社の方針で鹿沼へ、閉鎖撤退、ここの長井工場を閉鎖、撤退して鹿沼に移るということなもので、今後ますますやはり会社の経営などが厳しく閉鎖するとか、ライテックのような状況が起きるかもしれません。そういうときのためにやはり市も今回のこといろいろありましたので、やはり今後こういうことが本当に前向きに解決できるように従業員のために進めていかれるように、今回のことをしっかりと学んでいただいて、進めていただければと強く思うところです。

じゃあ、次の健康づくりについて再質問いたします。

まず、栄養講座ですが、先ほど健康課長もおっしゃったように、毎年10人前後の方が7日間の栄養講座を受講なさいます。食生活改善推進員とされます。その方たち10人前後の方が新しい会員として活動を始めるんですけども、もう高齢化がこの食生活改善、長井の推進協議会も昨年30周年を迎え、やはり高齢化が進み、やはりやめる方が出て、なかなか会員の増強とか、そういうものが非常に大きな課題となっております。ですから、栄養講座の開講というのは非常に大切なわけです。開講しないとますます減ってしまうと。そしてやめる人を少なくというようなお話でした。確かにやめる方頑張

+

って続けてくださいということを申し上げておりますが、そして1回やめた方でも新しく旧会員の掘り返しというか、そういうことでまた入っていただいて活動していただくというようなことも今、食生活改善推進協議会の中では頑張っておられます。そういうためにもぜひこの栄養講座というのは開講していただきたいと強く要望いたします。ぜひお願いしたいと思います。健康課長、本当に今年度はだめなんでございましょうか。そこをお聞きします。

○蒲生光男議長 松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長 私が申し上げた中身は、現在、欠員になっているということで、これについては募集をかけていくと。市長のほうからも早目に措置せよということですので、その方が配置になれば当然再び栄養講座、今のところはちょっとめど立ってないんですが、どうしましょうかという話を中で検討させていただいて、時期的に通年よりは遅れるということはあるかもしれませんが、そういったものを努めていきたい。ただ、これ7日間で非常に能力の高い人がつかないとなかなか難しい場面もあろうかなと思ってます。学校からすぐ上がった方ですと少し経験不足というようなことがあったりすると、非常に講座としてカリキュラムの質としてよくないのではないかなというふうなことも懸念されます。そういった意味で能力も大事ですっていう話をさせていただきましたんで、ただ、1人の方が配置できれば相当今の状況をより打開できるわけで、多少能力の高い人となれば、周辺の関係機関から応援いただいて講座を組むなり、少し知恵を出させていただければなというふうに思ってます。以上です。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 今回の栄養講座もそうですが、専属の栄養士が欠員となることがやはり今回の栄養講座の開講ができないことも含めて、市民の健康づくりには専属の栄養士という

のが大変重要です。不可欠でございます。ぜひ市長、新年度からの栄養士の配置ということに力を入れていただきたいと強く要望いたしますが、要望だけでなかなか難しいんでしょうけども、本当に市報だけでなく、本当に配置していただきたいと強くそこを思います。市長、いかがですか。健康づくりに対しても、昨年の秋からですからね。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。今泉議員おっしゃるとおり、ご指摘のとおり、できるだけ早く栄養士の方を応募いただいて採用していきたいということなんですが、今までの方が自己都合で退職されたというのは、栄養士さんを取り巻く、管理栄養士さんも含めてですけども、状況がかなり変わってきたということでありまして。今まで過去5年ぐらい前まではなかなか管理栄養士、栄養士さんの資格を持っておられる方が、職として栄養士さんを募集する事業所等が少なかったと。ところが、最近は福祉施設、あるいは保育施設、幼稚園も含めて、そういったところでの募集がかなりふえてまいりまして、したがって、栄養士さんとしてある程度実践を積んでいないと資格を持ってても現場にすぐ対応できるということが難しいというふうに聞いておりまして、そんなことから薬剤師さんとかあるいは看護師さんとか、そういった職種と同じようにもう奪い合いになるというような状況が、今、保育士さんもそうですね。保育士さんも本当に不足しておりまして、そういうような状況でございまして、市としては待遇の改善なども含めて、できるだけ早く雇用できるように努力してまいりたいと思います。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 今、市長もおっしゃるように、栄養士の配置ということは大変重要でございます。できれば、今までの栄養士は嘱託でございました。専属の栄養士というような配置

をお願いできれば、今回のように途中でいうことはなかったかなと強く思うところですけども、ぜひそのところは至急配置をお願いしたいと思います。

そして施政方針の中で先ほど健康課長もおっしゃいましたけども、「学・食・運」ということで新しく市民の健康意識向上を図るネットワークづくりを行うということが書かれております。具体的に先ほど健康課長のほうからちょっとお話がありましたけども、こちらは具体的にどのような講習というか、何回も講習を受けるのか、それとも講習1回、講座というか、そういうものなのか、ちょっとそのところを。財政の予算を見ますと5万8,000円ぐらいの予算のように拝見しましたが、これは単なるそういう講習だけということなんでしょうか。ちょっとそのところ。

○蒲生光男議長 松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長 それでは、「学・食・運」の研修事業の概要ですが、基本的には健康づくり、先ほど言ったように、食であるとか運動であるとかにかかわっている方をボランティアというような形で募集させていただいて、今のところ計画といたしましては1回から6回ぐらいを想定しています。最初にドクターの話が入ってきて、その後、栄養については今回の健康日本21の中で米沢女子短期大学の先生方にもご協力いただいておりますので、そういった先生方からのお話をいただくと。これは今までですと多分栄養なら栄養、運動なら運動と分けていたんだと思うんですが、ボランティアの方の全体でそれをお話ししましょうというような形であります。今のところ人数的には10名程度を想定している中身でやっていきたいと思っています。

あと大事なものは、やっぱり知識も深めていただくんですが、その後の4回から6回あたりをグループワークといいますか、例えば米短の先生あたりですと運動の部分で何とか体操をすれ

ばいい、何とか動きをすればいいということじゃなくて、現在も計画の策定の中で言われてるんですが、いかに体を動かすかということがテーマになってます。残念ながら県民の栄養調査の中でも運動は県内の中でも少し落ちてる。車社会が進んでるからだと思うんですが、我々のような働いていてもどういった形で冬の中でもどういった運動ができればかと。今までと違う形を市民の方とお話ししながらつくっていきたいというような提案なんかもございますし、もちろん食については、これは減塩等も、今泉議員ご承知のとおりでありまして、先ほどいみじくも平均寿命の話が町田議員から出たとおりで、長野県が伸びてるっていうのはある意味で減塩運動をやっていると。野沢菜を使った料理というんですかね、野沢菜だけの塩分で作る料理とか、こういう話が出てきてます。そういった今までとは違う切り口をこの「学・食・運」の研修の中でつくって、それを実践していけないだろうかというような、今までとちょっと違う切り口であります、そんなつもりで取り組んでみたいなと思ってるところです。

○蒲生光男議長 4番、今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 今の課長のおっしゃったように、「学・食・運」の研修をしたボランティアの方々と、またこの方々が食生活改善推進員の方々と新たに連携してさらに長井市の健康づくりの推進が大きく進むことを期待いたします。ぜひ長井市の健康づくりというところに力を入れていただき、そして市長のおっしゃってる日本一幸せなまちづくりに大きく貢献できることを希望いたします。

以上をもって私の質問を終わらせていただきます。

散 会

+

○蒲生光男議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開はあす午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時18分 散会

+

+

+